

## 令和2年度 徳島県立阿南光高等学校 学校評価 総括表

### 1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的な人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ ものづくりや6次産業化をはじめとした実践的な知識や技術を習得させ、地域の活性化に向けて社会に貢献する生徒を育成する教育を推進する。

### 2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 [キャリア教育の充実]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習をとおして、6次産業化をはじめとした実践的な力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域・大学等との連携を深め、地域から信頼され地域に開かれた学校づくりを推進する。 [地域等との連携]
- ⑤ 業務の効率化及び改善により、超過勤務削減に向けた働きやすい職場づくりを推進する。 [働き方改革]

### 3 重点目標と計画

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方向
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	具体的な取組・評価の根拠	評価	学校関係者の意見	
学校力の向上	①基礎学力の定着を図り、学力の向上を図る	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。	コロナ禍により授業日数の減少を夏季休業日の短縮や学校行事の精選により補った結果、2学期末までの総授業時数は11718時間。目標時間数が14648時間であることを基に比較すると全体での授業実施率は約80%であった。	A	学校運営の全体を通して、来年度取り入れる予定の「コミュニティ・スクール」がどうあるべきかを踏まえ、今年度の学校評価をすべきである。	引き続き学校行事の精選と授業時間数の確保に努めていきたい。
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施して、わかりやすい授業へ改善を進める。	生徒の授業評価アンケートで総合評価4.0以上を目標にする。	若手教員の研究授業を参観したり、教科で話し合いの場を設け、教員の授業力向上を図った。また、授業評価アンケートでは、総合評価4.0の目標を達成することができた。	A	新聞などのメディアで、ホッケーのU18の日本代表選手の輩出など、部活動における活躍ぶりをよく目にするが、今後とも頑張してほしい。また、再来年度開催されるインターハイの「ホッケー」は、大会の会場でもあ	
		実力テストを3回実施する。1回目は全学年ともに進路マップを実施する。2回目以降は学校独自の国、数、英の試験とSPI対策試験(2・3年次対象)を実施する。3年次には作文の試験も実施する。	実力テストと進路実現との関連について生徒アンケートを実施し、生徒満足度70%以上を目標にする。	本年度はコロナ対策の休校があり、1・2年次生は通常通り3回実施できたが3年次生は1回のみの実施となった。アンケートでは、「進路実現に役立つ」と答えた生徒は全体で75%と目標を達成した。しかし1年次83.1%から3年次64.4%と減少しており、就職・進学への進路決定が進むにつれ生徒の満足度が減少している。各教科ともに、就職・進学両	B		就職・進学の両方の場面で、「作文」や「小論文」の力を問われることが多い。3年次の実力テストでは学校独自の「作文」を課しているが、外部の模試の導入も検討し、文書での表現能力育成にも体系的に取り組んでいきたい。

			方の進路を視野に入れた内容に工夫されているが、さらなる検討が必要である。		
	学びの基礎診断に認定された測定ツールでもある数学検定や漢字検定、英語検定に取り組むことで、学習意欲を喚起し基礎学力の定着を図る。	受験者が増えるように呼びかけ、それぞれの検定で合格率15%以上を目標にする。	英検合格率41.7%(受験者数12人)、数検合格率43.6%(87人)、漢検合格率40.6%(32人)と各検定での合格率は非常に高い。対策補習を実施し、生徒の学習意欲喚起が十分になされた。その結果、「学習対策を十分にした」という生徒が67%と、生徒の満足度が高くなった。	B	り、全国から注目をされるので、試合での活躍もさることながら運営についても学校が一枚岩となって頑張ってもらいたい。  進路については、就職希望者が多いようだが、幅広く将来就きたい仕事を踏まえ、大学進学についても是非、強化してほしい。
②図書館の利用を進める	利用しやすく魅力的な図書館づくりを通して、読書活動の啓発を行う。	毎月1回「図書館だより」を発行する。新入生対象のオリエンテーション実施や学期に1回以上の読書週間の実施、図書委員おすすめの本をポップで紹介したり利用者への特典を設けるなど、年間の利用者を前年度比で10%増やす。(昨年度6985名)	毎月の「図書館だより」の発行や教員・図書委員の「おすすめ本」の展示・紹介、2階の新书推荐ボードなどを通して広報したが4、5月の休校措置により昨年比で来館者は2%、1人当たりの貸し出し冊数も12%減少した。	B	日々の授業については、電子黒板が設置され授業の手法も強化されているようだが、つづけて「ITの推進」をお願いしたい。  コロナ禍での休校措置等が実施された場合でも配布されたタブレットを通して学びや読書に興味を持てるように配信したい。
③進路実現に向けたキャリア教育を進める	3年次担任、科長、就職課員が最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。進路ガイダンスや進路講演会実施により進路選択を支援する。三者面談、応募前職場見学、進路先資料の公開を通して進路選択を支援する。採用実績を考慮に入れた進路選択により1次内定率90%以上を目標にする。生徒アンケートによる評価において生徒満足度80%以上を目標にする。	県内外延べ数十社の求人計画、入社試験概要などの聞き取りを行い、生徒に有意義な資料を提供できた。受験生のほぼ全員が応募前見学に参加し企業を知る良い機会となった。一次募集の内定率が82%(85/104)であり、昨年よりも下がってしまった。あこう意識調査の結果より80%の生徒が「良かった」と答えた。1年次生は3学期に分野別ガイダンスを一人二分野を選択し実施した。2年次生は2学期1月に予定していた進学型インターンシップをコロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、中止した。3年次生は、第1志望校の学校関係者を招いて、学校別ガイダンスを実施した。実施においては、「マスクの着用」「手指衛生」を徹底し、個別教室を最大限に設定して、「3密」を避けるようにした。	B	企業とのマッチングができていないか客観的に判断していけるようにする。  令和元年度より「進学・体験型のインターンシップ」を開始した。生徒の満足度も高く、引き続き実施する。  体系化した進路ガイダンスⅠⅡⅢの内容をさらに深化させ、各年次の生徒に適した有意義な情報を提供する。  体系化した進路ガイダンスⅠⅡⅢの内容をさらに深化させ、コロナウイルス等感染症の感染拡大時においても各年次の生徒に適した有意義な情報を提供する。

			2年次生については、第2回進路希望調査をもとに、3月後半に進学準備説明会を予定している。		
④校内教職員研修の充実を図る	各課と連携し校内研修の充実を図る。	学期に1回以上の研修を実施する。	各課とも昨年度並みの研修実施状況であった。メンター方式を取り入れた研修では、ベテラン教員からの貴重なアドバイスをいただくことができた。	A	
⑤ICTを活用した教育を推進する	学習支援のため家庭や放課後、休日を利用してICTを活用した学びの支援を行う。	学びポケットやDVD等を利用した学習動画、資料の閲覧による学習支援と教職員への研修を行う。	学びポケットの利用等の学習支援については休校期間中も含めあまり利用できなかった。授業のコンテンツ化や様々な配信方法を含め多様な学習支援に努めたい。	B	生徒1人に1台のタブレットが配布されることからMetamojiを使った双方向の学習支援を学校全体で取り組めるようにする。
⑥情報セキュリティ対策を推進する	情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。	1学期に3回、職員会議等を積極的に活用し注意喚起することで、セキュリティに対する意識の向上を図る。	各学期1回は注意喚起やセキュリティに対する意識向上へ取り組めた。	A	
⑦部活動の活性化を図る	部活動の全員加入を目標にする。また、活気ある部活動を実施する。	年間の部活動継続率を70%以上にする。	1年次生の部活動加入率103%。全体は80%であった。今年はコロナウイルス感染拡大のため、大会が中止され調査のタイミングで、すでに引退している生徒がいたことが原因である。	A	
	運動部、文化部、ものづくり部など更なる競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や活動実績を上げる。	数々の大会が中止されたが、ホッケー部・ライフル部が全国選抜大会に出場。また、ホッケー部から、1名が18歳以下の日本代表選手に認定された。	A	
	生徒が自主的に活動できる生徒会を育成する。	球技大会や生徒総会、各種壮行会を自主的に運営する。	このほか、学校祭、予選会を行った。	A	
	体育祭、文化祭の充実を図る。	文化祭では各科趣向を凝らす。体育祭では近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。	文化祭は一般公開せず、模擬店・体育館パフォーマンスにおいて制限をかけてコロナウイルス感染拡大防止に努めて実施した。各HR趣向を凝らした取り組みで生徒の笑顔がはじける1日となった。体育祭はクラス単位ソーシャルディスタンスでの実施となったが、グラウンドに全校生徒が集まり、活気ある1日となった。	A	

		人権教育の活動を進める部活動「人権探究部」の活動の充実を図る。	校内活動及び「中・高生による人権交流事業」南部ブロック生徒部会や地域との交流会等に100%参加させる。	コロナウイルス感染拡大のため、活動できなかった。	D	
人間力の向上	①基本的生活習慣の確立を図る	規則正しい生活に心掛けるよう指導し、家庭との連携を深めながら遅刻防止に取り組む。遅刻時の声かけ、月遅刻6回以上の生徒への指導を行う。(生徒課長・学年主任・各科長)	1日の学校全体の平均遅刻数を7回以内にする。	1日平均6.88人の遅刻数であった。1・2年次生は、遅刻5回以内表彰クラスが昨年より増えた。目標数値を下回る結果となったが、4、5月の臨時休校における登校日の減少を考えると、昨年と同数と想定する。	B	今年は、コロナ禍で参加できなかったようだが、復興の一環として、「もったいない2号」を活用し、陸前高田市の「桜ライン」にボランティアとして参加されているようだが、直接行けなくとも、携わった生徒は、生涯の宝になると思う。
		積極的に明るく元気な挨拶をできるようにする。(パワフル週間、学校安全の日)	すべての生徒が挨拶をできる。	パワフル週間や学校安全の日において、校門前や玄関にて指導にあたった。運動部の生徒を中心に、多くの生徒が元気にあいさつができた。	A	生徒の実習に対するアンケートで「満足度」が高いようだが、やはり「ものづくり」として、目に見えて製品が出来上がっていく過程が、達成感などの満足度に繋がっているようで、実習の大切さがわかる。
		頭髪・服装を正しくし爽やかに生活することができるようになる。全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導を行う。	頭髪服装検査を月1回実施し、1週間以内に改善を要する生徒を25人以内にする。	毎月の全校集会が中止となるなか、従来の指導から、生徒課と担任を中心に各教室へ行く方法に変更し、合計5回指導をおこなった。改善を要する生徒については、1ヶ月平均は、41名であった。増加の原因は、実施回数が減ったこと、三年次生に就職試験前のチェックが厳しくしたことが考えられる。また、新たにチェックカードを作成し、継続した指導をひとりひとり実施するようにした。	B	継続して、時代の変化に応じた様々な人権課題に関する知識を生徒たちに伝えていきたい。
②人権意識の高揚を図る	「人権学習ホームルーム活動」の充実を図る。	人権意識を高めるため、「じんけん」、「あわ」人権学習ハンドブック+αをそれぞれ5回以上活用する。	人権意識を高めるため、「じんけん」、「あわ」人権学習ハンドブック+αをそれぞれ5回程度活用できた。	A	充実度は、クラスの雰囲気が大きく作用していると感じる。生徒の中にも学習するテーマを事前に教えて欲しいという意見もあり、教職員だけでなく、生徒たちにも議論できる余裕を持てるよう、必要な資料などを提示していきたい。14項目については、人権学習だけではなく、3年次の進路	
	学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神を訴える。	生徒の人権学習アンケート等の評価を80%以上にする。	生徒の人権学習アンケート等の評価は77.8%であった。概ね目標に近づけたが、引き続き生徒の安心・安全を教職員が心がけられるよう取り組みたい。	B		
	公正な採用選考のあり方について理解させる。	校内管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目」に抵触する質問を受けたとき、85%以上の生徒が指導したとおりに答えられるよう	校内管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目」に抵触する質問を受けたとき、78.5%の生徒が指導したとおりに答えられた。	B		

		に指導する。		
	校内人権教育教職員研修の充実を図る。 人権教育関係行事の内容の充実を図る。	人権学習ホームルーム活動打合せ会と教職員研修会を合わせて年8回以上開催し、90%以上の参加を促す。「人権を確かめる日」や人権問題に関する講演会・映画会等を実施する。	コロナ禍の中、計画通り人権学習ホームルーム活動打合せ会と教職員研修会を合わせて年8回以上開催し、90%以上の参加ができた。「人権を確かめる日」や人権問題に関する講演会・映画会等を実施できた。	A
③環境教育を推進する	校内美化を徹底する。	清掃出席簿を作成し、毎日の清掃を徹底する。	清掃時の出席確認の徹底することで全体的に清掃に取り組んでいた。	B
		技師と連携し、年1回の全校除草を行う。 (専門棟は各科で行うようにする。)	全体での実施はできなかったが、専門等において各コースで実施できた。	B
		教室等のゴミ資源を4分類するための資源箱を設置する。 学期に一度、ゴミ袋内の分類状況を確認する。	教室内のゴミの分別がほぼ実施出来た。	B
	循環型社会形成を推進する。	ゴミ資源校内集積場を整理し、月1回ゴミ資源の集積状況調査をする。	ゴミの収集場での集積状況を調査した	B
		年1回、雑誌を古紙業者に収集依頼する。	毎月の使用量を確認し、全校生徒に呼びかけた。	A
	省エネルギーへの取り組みをする。	電気使用量・水道使用量を前年度比で減少させる。	毎月使用量を確認し、全校生徒に呼びかけた。	A
	環境問題標語・ポスターを募集する。 文化祭において優秀作品を展示する。	3年間で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。地球規模で考え、足下から実行できる人間を育成する。	夏休みの課題として生徒に提示し、環境問題への意識を高めた。	B
④安全教育を推進する	防災教育を推進する。 火災時の初期消火と避難、人員確認を行う。	避難経路を周知し、いつでもどこでも安全に避難し、人員確認できるよう体制を整備する。	今年度はJアラート緊急地震速報訓練を活用して実施した。	A
	地震時の避難と人員確認	避難訓練をより実践に即した	今年度はJアラート緊急地震速報訓	A

指導でも重ねて指導していきたい。 コロナの影響で、リモート講演会やズームを使った研修となり、活発な議論は成されなかったが、ネット上の人権侵害に対する対処の仕方などしっかりと学習できた。映画会は、保護者の参加などもあり、効果は高められた。
日々の清掃活動を習慣づける。
来年度は全体実施計画したい。
更なる分別の徹底を図る。
継続して実施する。
継続して実施する。
継続して実施する。
提出物の向上に向けて取り組む。
次年度も継続して実施する。
次年度も継続して実施す

	を行う。	方法に改善する。	練を活用して実施した。		る。
	自転車・原付の交通事故をなくすため、交通安全意識を高める指導に取り組む。	交通事故0を目標にする。月1回自転車点検と駐輪指導を行う。原付安全実技講習会や交通安全講演会を実施する。	立哨指導場所を増やし、登校時の自転車事故減少に向けて取り組んだ。また、交通安全意識を高めるため、月に一度自転車駐輪指導を行った。また、例年実施している全校生徒対象の交通安全講演会を本年度は、DVD視聴で実施した。	B	
⑤健康教育を推進する	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	"ほっとる一む"を毎日開室する。教育相談日より「やすらぎ」を発行する。	”ほっとる一む”を毎日開室した。教育相談日より”やすらぎ”を発行できた。	B	
	校内研修の充実を図る。	がん教育講演会を実施し、生活習慣病予防についての理解を深める。AED講習会やエピペン研修を実施し、緊急対応についての知識、技能を高める。	がん教育講習会は新型コロナ感染予防のため中止とした。緊急対応については、初の試みとしてロールプレイング形式で学年ごとにおこなった。全職員が参加し問題点を発見できた。	A	次年度もがん教育講習会は中止するが、生活習慣病予防のDVDにより意識啓発をはかりたい。緊急対応については、継続して実施したい。
	生徒自らが健康管理をできるように、継続的な保健指導を行う。	保健日より・食育日より等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒を昨年度より10%減らす。(昨年度の保健室利用者673名)	繰り返し来室する生徒に対しては生活習慣の改善等の指導を行い、頻回来室者は減少した。	A	生徒保健委員会活動を活性化し、健康に関する意識啓発を実践するとともに、保健室対応では個別指導の充実を図りたい。
⑥特別支援教育を推進する	特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援体制を確立する。	特別支援教育について校内教職員研修会を5回実施する。支援の必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図る。外部機関と連携し、生徒にとってより適切な支援を行う。各学期に1回、支援だよりを発行する。	特別支援教育について校内教職員研修会を4回しか実施できなかった。支援の必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図れた。外部機関と連携し、生徒にとってより適切な支援を行った。	B	特別支援教育については、今年度コロナ禍も影響し、外部講師を招いての研修会を実施することができなかった。次年度は方法を工夫して、是非、実施したい。また、外部機関との連携については、今年度同様、継続していきたい。
⑦学校いじめ防止の取組を進める	学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。	全教職員がいじめの定義を再確認し、いじめを許さない学校として早期発見、再発防止に取り組む。年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。	未然防止のために7、12、3月の年3回悩みやいじめに関するアンケートを実施。本年度は、学校生活などで悩みを抱えている生徒が増加傾向にあったが、いじめ・嫌がらせについては0であった。	B	いじめ問題については、これからも全教職員で対応していきたい。
⑧ボランティア活	ボランティア活動を通して、地域や世代を超えた	生徒会だけでなく、さまざまなボランティア活動を実施す	コロナウイルス感染拡大のため、活動できなかった。		

	動を推進する	交流を行う。	る。		C		
実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る	教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。	校内研修会を1回以上実施する。科から1名以上参加する。	校内研修会ではなく、教員によるマンツーマンでの技術指導を受け、技術向上に努めた。ものづくりマイスター（旋盤・フライス盤・溶接）から指導を受け、実習でその技術を選んだ。 校外の研修会・講習会は、コロナ禍によりすべて中止となったために参加できなかった。	B	感想だが、中学校への出前授業で「ぼてっとライト」や「ぶるっとライト」など、防災グッズのものづくりを、高校生がわかりやすく説明してくれて、中学生も大変喜んでい また、新野キャンパスで管理している「盆栽」は、阿南市内の高校や中学校の卒業式に貸し出ししており、学校関係者は大変助かっている。	校内外の研修を行い、技能士3級を指導できる教員を増やす。 次年度もものづくりマイスター5職種（旋盤・フライス盤・溶接・鍛造・とび）招聘し、生徒のみならず教員の技術力向上を図る。
	②ものづくり技術を生かす	実習等の成果を基に、各種コンテストや大会に参加して上位の成績を残す。	ものづくりコンテスト、ロボット競技大会、四国溶接技術競技会に出場する。	ものづくりコンテスト・四国溶接技術競技会はコロナ禍により中止となったが、ロボット競技大会や、新たにマイコンカラー競技大会にも出場した。	B		出場できるような技能・技術の高い生徒を育成するよう、日頃からの指導を心掛ける。
	③安全作業教育を推進する	実習を通して、事故や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚を図る。	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が実習場の点検、体制を整える。生徒による授業評価の満足度を80%以上にする。	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底することができた。安全確保のために職員が実習場の点検、体制を整えることができた。	A		安全教育の徹底を図るとともに5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を心掛ける。実習場内の安全表示や掲示を充実させる。
	④阿光版デュアルシステムの充実を図る	2学年次全員参加の短期インターンシップと3学年次希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。	生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。評価平均値3以上の評価ができるようにする。	2年の短期インターンシップは、コロナ禍により依頼先からの断りが相次ぎ、中止した。 3年の長期インターンシップは、1回の訪問生徒数を2名に制限しながら参加を継続した。 南部テクノスクールとの実践的ものづくりに係る連携協定に基づき、生徒6名を派遣し、全員から高い満足度を得た。	B	今年度は、コロナ禍の影響で、インターンシップができなかったようだが、今後再開できなかった場合は、インターンシップを何らかの方法でできないか検討してほしい。	進路希望に応じた体験場所を確保できるよう、企業・学校との連携を図る。
	⑤望ましい職業観・勤労観の育成を図る	進路セミナーや社長塾の実施により進路に対する意識の高揚を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	企業の社長、人事担当者、卒業生を講師として招いて社長塾や進路セミナーを実施する。また、職場見学会を実施する。生徒アンケートによる評価において生徒満足度80%以上を目標にする。	新型コロナウイルスの感染予防のため、社長塾、インターンシップが中止となった。応募前見学や3年次の進路報告会を通して職場の状況や勤労観を育成できた。 あこう意識調査の結果より76%の生徒が「良かった」と答えた。	B		新しい生活様式の中で、リモートによる進路講演会等の工夫をしていく。
	⑥資格取得を推進	合格率をあげるために可能な限り、資格取得補習	技能検定3級旋盤に向けた実技指導を行い、合格率を80	技能検定3級旋盤には1名が受検し、合格率は100%であった。			目標を達成できた項目については、来年度も引き続き

	する	を実施する。様々な資格取得にチャレンジするよう指導し、自主教材づくりを行う。昨年度以上の受験者数、合格者数、合格率を目指す。	%以上にする。電気工事士の第1・2種の合格率を60%以上にする。技能検定3級とびの合格率を80%以上にする。2級土木施工管理技士と2級建築施工管理技士の合格率を20%以上にする。工業学会優秀生徒受賞(資格ポイント8)を目指すよう様々な資格取得にチャレンジするよう指導する。	電気工事士の第二種は、50名が受検し合格率は40%、第一種は5名が受検し合格率は40%であった。技能検定3級とびは中止となった。2級土木施工管理技士は37名が受検し9名が合格、合格率は24%で昨年より4ポイント増加した。2級建築施工管理技士は25名が受検し12名が合格、昨年はゼロであったので、大幅な躍進が見られた。工業学会優秀生徒を受賞する生徒は52名で、8名増加した。	B		努力を続けていく。その他の資格は合格率が高まるよう、より一層補習等を行っていく。
	⑦産官学連携を推進する	地域社会や企業、産官学と連携したものづくりや、ものづくり技術・技能の継承を行う。	連携先からの聞き取りアンケートにより60%以上の満足度を得る。	エンカル消費工業科の取り組みで、地域のバイオマス発電を手がける企業から講師を招聘し、持続可能な社会実現に向けて多くの知見を得た。生徒アンケート満足度8割以上。現代の名工による伝統技法の継承では、地域に伝わる優れた技法を学び地域の再発見につなげた。満足度100%。	A		地域の次代の担い手となれるよう次年度も地域連携の強化を図る。また、地域連携においては、地方創生や持続可能な社会実現の理念を共有し、本校が果たすべき役割を再認識する。
地域との交流	①地域貢献を推進する	地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。また、環境・防災関連製品を製作し地域へ応える。	連携先からの聞き取りアンケートにより60%以上の満足度を得る。 地域の要望に応えられたか、聞き取りアンケートにより60%以上の満足度を得る。	エンカル消費工業科の取り組みで、自作(新聞紙・廃棄段ボール)エコバッグを試作し、本校文化祭や「阿南まちマルシェ」で、発信及び普及活動をした。多くの地域の方々に発信でき、ほぼ全員が満足された。	A	テレビや新聞で知ったが、新野高校の卒業生など、地域の人と光高校の2年次生が協力して、卒業生を祝う「花火大会」があったが、大変感動し地域の人たちも喜んでいた。今後も、地域と学校が連携した取り組みを是非行ってほしい。	本校が地域のけん引役となり、環境問題や地域防災の推進が図られるようさらに実践的に取り組む。また、「新しい生活様式」に順応した新たな活動を模索する必要もある。
	②積極的な広報活動と学校開放を推進する	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	週1回以上はホームページを更新できるよう各課等に働きかける。	限られた部活動だけが、ホームページを更新していた。本校の最新の教育活動などが更新できるように、各課などにもっと働きかけていきたい。	B		
		本校の教育内容や教育活動について、広報誌「ひかり」を発行し、中学校への広報に努める。	訪問校を前年度より増やす。中学校等への広報内容を工夫する。	今年度は広報「ひかり」を2回発行し、本校の取組や活動内容を中学校や地域などに広報することができた。	A	地域の農家は、外来種の「ジャンボタニシ」の繁殖や被害に困っており、新聞に出ていたが「ペットボトルを加工したジャンボタニシ捕獲器」	
		”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	参加者を前年度より増やす。(受付名簿による)	9月26日(土)に実施したオープンスクールには、中学生140名・保護者51名・教員7名の計198名の参加者があった。毎年夏休みに行われている体験入学がコロナのために実施されなかったことにより、参加	A		

			者が増えたと思われるが、「進路選考の参考になった」という中学生の声が多く聞こえてきた。	を是非、普及してほしい。
	実施したPTA活動の状況を学校ホームページにアップすることにより、保護者に周知する。	PTA活動実施後、1週間以内に学校ホームページを更新する。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点よりほとんどすべての活動や集会が中止となり、学校ホームページにアップすることができなかった。	C
	PTA活動を活性化させることにより、保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。	PTA総会をはじめとする各種研修会への参加人数を昨年以上に増やす。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種会を行うことができなかったが、保護者に文書で連絡することにより理解を求めることができた。	A